

第5学年 総合的な学習の時間指導案

3組 細野 友典

1 単元名 もっとかがやけ！わたしたちの学校 明日へつなく、わたしの30周年記念

2 単元について

- ・本校は今年度、創立30周年を迎える。記念運動会や記念式典などの記念行事が予定され、子どもたちも「記念の年なのだ。」と感じている。また、子どもたちは5年生となり、初めての委員会活動に取り組んだり、集団登校のリーダーになったりして高学年としての活動に意欲的に取り組んでいる。反面、年数の重みを意識し、自分たちのくらしと深く結びつけて考え、高学年として学校をよりよくするために活動していきたいと感じている子どもは少ない。また、「今」の学校が30年という歴史の積み重ねの上に成り立っており、自分たちがその歴史を明日へつなくという意識もまだまだ薄い。
- ・本単元では、創立30周年という機をとらえ、普段何気なく見ている学校の施設などから歴史や文化に注目したり、今の自分の学校生活について見直したりする活動を通して、友達、先輩、教職員、そして地域の方など学校にかかわるたくさんの人々と触れ、これまでと今の学校にかかわる様々な「人」の思いや願いに気づかせたい。そして、「わたしの30周年記念」として、わたしたちの学校をもっとかがやかせるため、学校の歴史を明日へつなげるために何ができるかを自分なりに考え、計画し、実践する。そうすることで、自分にとっての学校という存在を見つめ直し、さらに学校に愛着を深めるとともに、学校生活を一層よりよくしていこうと前向きに考え、実践していく態度が育つと考える。
- ・まず、学習の最初に創立30周年を迎える堀川南小学校についてどう思うか話し合った。子どもたちは、学校の周りに様々な樹木、昆虫王国やメダカ池などがあり自然溢れる点や学校が新しくきれいである点など施設・設備としての学校のよさを見つけた。また、毎年、児童会が決めているめあてに向かって様々な取り組みが行われ、それに応えようと一生懸命がんばっている子ども、毎朝、正面玄関に立って元気よくあいさつしてくれる先生、いつも登校の安全を見守ってくれる交通指導員の方などの姿から、学校には様々な「人」がかかわっていて、その人たち全体で学校が支えられているということに気づくことができた。「学校の歩みを調べよう」の活動では、創立当時の写真を見たり、学校探検をしたりしながら学校の歴史や文化に注目した。さらに、卒業生や本校に在籍したことがある父母にインタビューを行ったり、創校記念誌やPTA会報などの資料を利用したりして調べ活動を行った。学習の過程で、初代のPTA会長から創立当時のことについて直接話を聞くことで、地域の方の学校に寄せる願いに気づいたり、会長さんの人間性に心を動かしたりして、自分たちには何ができるのだろうと考え始めている子どもたちである。
- ・2学期は、「明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクト」として、学校をもっとかがやかせるために自分にできることを考え、計画し、実践する。活動に当たって、一人一人が自信をもって取り組み、成就感を味わえるように、子ども一人一人と対話する時間を大切にしていこう。どんな願いをもっているのか、どんな活動や方法を考えているのかを知り、支援することによって見通しをもって追究できるようにさせたい。また、追究の過程における子どもの心の動きをしっかりとらえ、効果的に話し合いの場を設定することで、自分の活動を見直したり、深めたりできるようにする。そうすることで、新たな堀川南小学校の歴史を共につくっていこうとする気持ちが高まっていこうと考える。活動を通して、学校に対する思いを深めながら、自分のくらしをよりよくしていこうと主体的に実践する態度をはぐくんでいきたい。

3 単元の目標と評価規準・評価方法

(1) 単元の目標

- ・創立30周年の学校に関心を持ち、課題を見つけて、追究することができる。
(課題を見つける力・問題を解決する力)
- ・学校の歩みを調べたり、学校にかかわる様々な人々の話を聞いたりして、それぞれの人の学校に寄せる思いや願いに気づくことができる。
(主体的な学習態度)
- ・学校を愛する気持ちを持ち、「明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクト」として、自分にできる活動に進んで取り組むことができる。
(人と進んでかかわる力・表現する力・生活に生かす力)

(2) 評価規準・評価方法

	学 習 活 動	ア 課題を見つめる力	イ 問題を解決する力	ウ 主体的な学習態度	エ 人と進んでかかわる力	オ 表現する力	カ 生活に生かす力
第一次	学校のあゆみに調べて、30周年の学校を見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・30周年の堀川南小学校を見つめて調べてみたい課題を見つめることができる。 ・心を動かしながら見たり聞いたりして、活動をステップアップさせる方法を見つめることができる。(カード・発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる方法を考え、調べ活動の計画を立て、見通しをもって学習を進めることができる。 ・本・インタビュー・見学・アンケートなどから情報を集めることができる。(活動の様子・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい方法で、調べ活動に進んで取り組むことができる。 ・友達のよさを自分の活動に取り入れることができる。 ・様々な情報を関連づけ自分なりの考えをもつことができる。(活動の様子・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたり、手紙や電話でお願いしたりして、進んで相手にかかわることができる。(活動の様子・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューや話の内容を考え、練習することができる。 ・相手の立場や気持ちを考えて、場にふさわしい話し方ができる。 ・話し合い活動では、自分の考えや根拠をはっきりさせて話すことができる。(発言・カード) 	
第二次	明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクトの活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクトとしてできることを見つめることができる。(カード・発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動を立て、見通しをもって進めることができる。 ・自分の活動を振り返りながら、自分なりに工夫して、粘り強く取り組むことができる。(活動の様子・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクトとして、自分の決めた活動に進んで取り組むことができる。 ・友達のよさを取り入れながら、自分の活動に生かすことができる。(活動の様子・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動をよりよくするために友達に協力を求めたり友達に協力したりできる。 ・伝えたい相手に自分の思いを伝えることができる。(活動の様子・発言・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に必要な情報を選んで、伝えたいことをはっきりさせることができる。 ・相手や目的を意識し、表現を工夫して伝えることができる。(活動の様子・発言・新聞・発表・手紙・カード) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域を愛し、よりよくしようとする気持ちをもつことができる。 ・自分にできる活動を継続していくことができる。(活動の様子・発言・カード)

5 研究主題との関連

研究主題

自ら課題を見つけ、主体的に追究し、自分の生き方を考えていこうとする子どもの育成を目指して

<仮説 1>

身近にある教材を開発したり、子どもの思いが生きる単元構想を工夫したりすることで、子どもの追究意欲を高めることができる。

(1) 子どもが見通しをもって楽しく追究を進めることができる単元構想の工夫

学校への関心を高める単元との出会いの場

まず、単元名と出会い、今の学校について思うことを話し合う。その中で、自然や施設面の特徴、学校の歴史や文化、児童会の伝統的な活動や子どもたち学校生活、教職員や地域の方の働き、30周年の意味など様々な視点を見出し、今まで当たり前のように生活している学校を新たな目で見つめ、関心を高めることができると考える。

また、創校時の写真を見て、今の学校と比べたり、学校探検をして、先輩方の軌跡をたどったりしながら、普段何気なく見ていた「もの」にも思いや願いが込められているのではないかと気づき、課題をもって調べようとする意欲を高めることができる。

心をゆさぶる地域の方とのかかわり

調べ活動や卒業生へのインタビューなどを通して、創校当時の様子について、子どもたちの心に新たな疑問が生まれたり、もっと詳しく知りたいと願ったりするであろう。そこで、自治振興会会長（初代PTA会長）金田さんや校章を作成した南さんの話を聞く機会を設定する。

金田さんには、学校設立の経緯、創校当時の様子や地域の人々の尽力、今の学校に寄せる願いについて、南さんからは、校章に込めた願いや地域の一員として子どもたちに望むことについて話を伺う。30年前から今も変わらず、学校の除雪やふれ合い農園の活動に取り組んでくださる金田さんの生きる姿や30年前から学校をずっと見守ってくださる南さんの思いにふれることで、子どもたちは、心をゆさぶられ、学校についてもっと知りたいと願ったり、もっと学校をよくするために自分も何かしたいと考えたりして、追究意欲が高まることを期待する。

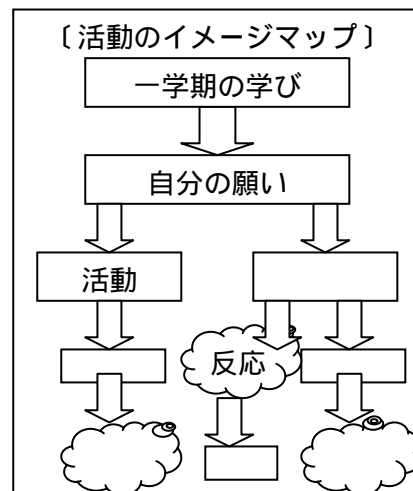
自分らしさを生かした主体的な活動を生み出す「明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクト」イメージマップの作成

1学期に「学校の歩みを調べよう」で培った学校に対する思いを基盤に、2学期には、「明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクト」として、学校をもっとかがやかせるために自分のできることを考え、計画を立てて、実践する活動に取り組む。一人一人が自分らしさを発揮し、自分の活動に自信をもって取り組むことができるよう支援していきたい。

活動に取り組むに当たって、自分に何ができるのか課題を見つけることは、子どもたちにとって容易なことではないだろう。

そこで、まず、2学期の活動の始めに共通のテーマ「もっとかがやけ！わたしたちの学校 明日へつなく、わたしの30周年記念」について「明日へつなく」や「わたしの30周年記念」という言葉の意味を一人一人がしっかり考え、学級で話し合うことで共通理解する。

次に、1学期の学びを通して生まれた思いから、テーマにつないで自分が取り組んでみたい活動を想定し、活動イメージマップを作る。活動イメージマップには、一学期に自分が学んだことと、どんな学校にしたいかという自分の願い、そのために



自分がどんな活動をしていきたいか、それはどのように進めていけそうかを表す。書くことで、自分の考えを明確にすることができるであろう。迷ったり、悩んだりしたことや、実現可能かどうか自分で判断できないことなどは、教師との対話を通して、いつごろまでにどんな取り組みをしていきたいか活動への見通しをもたせたい。しかし、活動の過程で、自分の取り組みや計画を見直したいと考える子どももいるであろう。9月は試行期間として、何ができそうか試しに取り組んでみたり、今の学校生活を調べながら活動したりして、試行錯誤しながら、主体的に取り組める自分の課題を見つけさせたい。活動の基本は、個人だが同じめあてや願いをもつ者同士協力して活動することもできるようにしていきたい。

< 仮説 2 >

互いの見方や考え方を聞き合う場をしっかりとつことで、子どもは一人一人のよさを認め合い、自分の追究を見直したり深めたりすることができる。

(1) 問題解決の過程を振り返り、互いの見方や考え方の違いやよさを聞き合い認め合う場の設定とかわらせ方の工夫

子どもたちが「明日へつなく、わたしの30周年記念プロジェクト」として、自分の課題に向かって、計画を立て、活動を進める過程では、悩んだり、迷ったり、壁にぶつかったりすることもあるだろう。また、活動に取り組む中で、活動に夢中になるあまり、自分の目指す方向を見失ったり、目先のことにとらわれたりすることがあるかもしれない。

そこで、追究の過程における子どもの活動の様子や心の動きをとらえて、話し合いの場を設定することで、自らの実践の意味を問い直したり、よりよい活動の方向性を見出したりできるだろうと考える。

そのために、教師だけでなく、子どもたち同士が互いの活動の様子やどんな思いで活動しているかを知るために活動カレンダーを掲示する。活動カレンダーには、一人一人の願いと取り組むこと、毎日の活動を積み重ねていく。活動した子どもたちは、したことを満足度別カードに記入し、活動しない日は、空欄にする。そして、教室に掲示することで、それぞれの活動の足跡が心の動きと共に互いに把握でき、話し合いに生かせると思う。

〔 掲示用活動カレンダー 〕

満足度カード 満足した ・ ・ ・ ピンクカード
満足できなかった ・ ・ ・ 水色カード

名前	自分の願い	自分の取り組み	9 / 4	9 / 5
堀川			したこと	したこと
南			したこと	したこと

また、話し合いの中では、テーマを再度意識させることで、自分の活動を見つめ直せるようにしたり、活動の様子が分かる映像や、活動に対する他者の評価を効果的に取り入れることで、自他のよさを認め合えるようにしたりして、自分の学びに生きる話し合いとなるように支援していきたい。

< 仮説 3 >

子どものよさを確実に把握し、個に応じた支援を行ったり、目的や場に応じた評価方法を工夫したりすることで子どものよさや可能性を伸ばすことができる。

(1) 一人一人のよさや可能性をとらえる評価方法の工夫とそれに応じた支援の在り方

